

現役引退後、岐阜へ

今まで積み上げた知識を

地域に、若い世代に、還元したい。

ロシア語学科卒業後、外務省に入省。海外勤務20年のうち通算12年間をソ連・ロシアで勤務した玉木さん。

定年退職後は関西外国語大学で教鞭をとり、その後の平成17年から「岐阜ロシア文化サロン」にてロシア史などを教えています。

20代から70代の幅広い年代が学ぶサロンで伝えたいこと、そしてロシアの魅力についてうかがいました。

海外に関心を持ち、自分の考えを発信。

それが国際化につながる。

日曜日の午後、社会人や学生たちが熱心に耳を傾ける「岐阜ロシア文化サロン」。玉木さんはここで、ロシアの歴史や時事問題などについて話しをしています。現在、ウクライナやバルト三国など一般に日本ではあまり馴染みが薄いですが、民族問題を考える上で示唆に富んだこれらの国の歴史について講義をしています。

実は、この「岐阜ロシア文化サロン」を立ち上げたのは玉木さんご自身。現役を退いた後も何かボランティアとして、社会貢献をしたいと考え、外務省勤務と大学で教鞭をとった経験を生かせる道として文化サロンを思い立ったそうです。

「国際化が叫ばれて久しい今、自分が持っている知識や経験を社会に還元したいと思いました。皆さんが国際問題に目を向けたり、自分の生き方を考える上で参考になればうれしいですね」と玉木さん。

ロシアについて学びたいという人が手を挙げ、サロンはスタートしました。1時間半のサロンでの話のうち、最後の30分は質問や感想タイム。リラックスした雰囲気の中、サロン生たちは思い思いに発言します。

「講義とは全然関係のない発言でも OK。海外旅行のエピソードやテレビで観た話題でもいいのです。発言の場をつくることが何より大切。海外に関心を持ってお互いに話し合うことが、国際化の行動につながると考えています。国際問題に関心のある方はサロンに参加下さい。大歓迎です。



最後の30分がおもしろい、と玉木さんも皆さんとの会話を楽しんでいる様子です。

<岐阜ロシア文化サロンの紹介>

開催日時：毎月第2、第4日曜日 13時30分～15時

場所：岐阜県国際センター 岐阜中日ビル2階 柳ヶ瀬通り

文化や芸術への興味は今も尽きず。

ロシアにまつわる著書も上梓

仕事でも、退職後の今もずっとソ連・ロシアと関わり続けている玉木さん。
そもそも、なぜ「ロシア」なのでしょう。

「ロシア語を選んだのは、何かといえば“アメリカ”という当時の風潮が癪に障ったんです。18歳の頃は生意気だったんでしょうね。反抗心から、人とは違うものを選んだということもあります。ただ当時、社会主義国家に関心を示すのは微妙な問題がありました。しかし、ソ連は日本にとって近い国ですし、アメリカは知っているのにこの国については知らないということでは、日本という国の安全を計る上で片手落ちになるのではないかと考えましたね。もちろんバレエなどの舞踊、芝居、民謡など芸術や文化が魅力的という理由もありました」。

玉木さんは大阪外国語大学を卒業後は在ソ連大使館などで勤務しました。

「ソ連では国民の文化・芸術に対する関心が高く、関心を持つ人の割合も大きかったですね。いまのロシアでもそうですが。観劇のチケットは当時かなり安く、誰もが気軽に観に行けました。車の運転手といった人でもクラシック音楽に造詣が深かった。子どもの頃から“正統”に慣れ親しんでいる感じがしました」。

一方で、外国人に対しては行動の自由の制限など種々の規制がありましたが、「74年間続いた社会主義国家の姿を実際に見ることができて貴重な経験」と振り返ります。

そして退職後の今も、バレエ、音楽、ニュース、エンターテインメントなどロシアのあらゆる分野に関心をもち続けておられます。平成19年にはロシアにまつわる著書も上梓しました。活動の源にあるこの好奇心とパワーこそ、後輩として是非引き継いでいきたいものです。

<著書のご紹介>

『プチャーチン使節団の日本来航 改訂版 ～ロシアからみた安政の日露通好
条約への道～』

著／玉木功一

発行／協同組合岐阜マルチメディア研究所

1524円